

エビデンスとプラクティスの両立 2

病原体の伝播をブロック！ これからの環境整備を考える

療養環境が病原体の伝播経路になることが再認識されており、医療従事者の手指衛生のみならず、環境の清浄化が感染制御において有用である。

そのため、環境整備は看護の基本として看護師の日常業務に組み込まれているが、感染対策のひとつであることを意識し、病原体が伝播しにくい環境を整えなければならない。なかでも、薬剤耐性グラム陰性菌やクロストリジウム・ディフィシル、ノロウイルス等は、乾燥した環境表面にも長期間生存可能であり、日常の環境整備を適切かつ確実に行うことは医療施設において重要な課題である。

環境清掃が病原体の伝播防止に有効であった事例紹介、感染対策における環境整備の重要性、効果的な環境整備の方法（環境清掃の方法、使用する物品や洗剤、クロス等を含む）についてディスカッションを行う。そして忙しい業務の中でも、看護師・看護補助者が、病原体が伝播しにくい環境を整えることができるよう、ICNとしてすべきことを考える機会にしたいと考える。